

小学校4年生国語科「書くこと」の学習過程における

「情報の収集」段階の特徴の検討

武野結基（川崎市立平小学校）・佐藤和紀（常葉大学）・高橋純（東京学芸大学）

概要：小学校学習指導要領解説国語編（文部科学省 2017）によると、「書くこと」領域では「題材の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」という学習過程に沿って指導事項が明記された。児童が情報の収集をする場面では、学年の発達段階や児童の実態に応じていくつかの収集手段が考えられる。しかし、それらの手段の特徴については検討されずに情報の収集を行うことが多い。そこで本稿では、国語科「書くこと」の新聞を書く活動において情報手段の特徴を検討する時間を学習過程に位置付けた実践について、その際の学習活動の特徴を検討する。

キーワード：国語科、書くこと、学習過程、情報の収集、小学校

1 はじめに

小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省 2017）では、主体的・対話的で深い学びの視点から、各教科等の学習の過程を重視して指導の充実を図ることとされた。特に国語科の「書くこと」領域では、学習過程を以下のように明記している。（表1）この過程は「指導の順番を示すものではない」としているが、学習過程を繰り返す中で資質・能力の育成がされるものと考えられる。

表1 「書くこと」領域の構成

学習過程	(1)指導事項			(2)言語活動例		
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
書くこと	題材の設定	ア	ア	ア	アイウ (説明的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動)	アイウ (説明的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動) アイウ (学文的な文章を書く活動)
	情報の収集					
	内容の検討					
	構成の検討	イ	イ	イ		
	考えの形成	ウ	ウ	ウ、エ		
	記述					
	推敲	エ	エ	オ		
	共有	オ	オ	カ		

永田（2017）は、「情報収集の目的を確認してから収集活動を始める」ことを学習者が主体的に情報を収集するための手法として提案している。また、塩谷ら（2016）によると、情報の収集において、調べる方法を整理する指導方法を提案しているが、収集手段の特徴を中学年の児

童が検討する活動においては提案されていない。また、児童が情報の収集をする際、情報手段の特徴について検討がなされず、教師が一方的に与えたり、根拠なく情報手段が選択されたりして活動に入る場合が多い。

そこで本実践では、国語科「書くこと」の学習過程における「情報の収集」を詳細化し「手段の特徴の検討」と「手段の検討」を位置付け、情報の収集を行う際に根拠をもって情報手段を選べるようにした。その際の学習活動の特徴を検討する。

2 実践の方法

(1) 実践対象および実践時期

- ・対象：川崎市立X小学校 4年生40名
- ・時期：2018年6月中旬～7月中旬

(2) 単元について

- ・単元名：新聞を作ろう（全16時間）
- ・単元計画（抜粋）（表2）

学習課題を「読む人にわかりやすい学級新聞を作ろう」と設定した。「読む人」とは、クラス友達、学年の友達、先生の3つを対象とした。

新聞を作る活動は児童にとって初めての活動であったため、実態を踏まえ8つのグループに分かれて取り組むこととした。

表2 単元計画

学習過程	時	学習活動
題材の設定	1	・学習課題を設定し、学習計画を立てる。
	2	・読む人に伝えたいことを意識しながら、どんな新聞を作るのか話し合う。
	3	・これまでの経験を振り返り取材方法を挙げ、経験を元にそれらの特徴を考える。
手段の特徴の検討	4	・これまでの経験を振り返り取材方法を挙げ、経験を元にそれらの特徴を考える。
	5	
情報の収集	6	・取材方法の特徴を踏まえ、自分達の知りたい情報はどの方法で得られるのかを考える。 ・取材方法を決める。
	7	・自分達が決めた取材方法で取材をするにはどんな準備が必要かを考える。
情報の収集	8	・取材をする
	9	
	10	

(3) 検証方法

事前準備が終わった段階で、手段を選んだ理由について各グループに聞き取り調査を行い、やりとりから根拠をもって手段を選択していたかどうかを検証した。

せたところ、現地調査、インタビュー、インターネット、図書資料の4つが挙げられた。これまでの経験とは、就学してから本単元までの経験とした。また、教科書の教材文を参考に、アンケート調査も加えることとした。

5つの手段の特徴について、今までの経験を元にクラス全体で検討し、挙げられた特徴をメリット・デメリットに分類した。アンケート調査の特徴については、教科書の教材文を参考に

3 実践の結果

(1) 手段の特徴の検討

これまでの経験を振り返り情報手段を挙げさ

表3 児童が挙げた情報手段の特徴

手段	メリット	デメリット
現地調査	・実物（本物）を実際に見ること、触ることができる。 ・写真が撮れる	・行けないところもある ・時間がかかる
インタビュー	・直接聞くことができる ・詳しく聞くことができる	・聞きたくても聞けない人もいる ・相手が知りたいことを知っているかわからない ・知りたいことについて知ってそうな人を見つけないといけない
インターネット	・情報がたくさんある ・実際に行かなくてもいい ・いろいろな人が情報を載せている ・機器があればどこでもできる	・正しくない情報もある ・お金がかかることがある ・読めない字があつて、わからない ・機器の使い方がわからないとできない
図書資料	・確実なことが載っている	・本を探すのが大変 ・やぶれる ・字が多い ・重い ・情報が古いときがある
アンケート調査	・たくさんの人の考えを知ることができる ・いろいろな質問の方法がある ・いろいろな意見が出てくる	・いろいろな意見が出てくる ・アンケートに答えてくれない人もいる

した（表3）。

（2）手段の検討・事前準備

手段の特徴を踏まえ、どの手段なら自分達の知りたい情報を得られるのかをグループごとに検討した。その結果、現地調査とアンケート調査を選んだのは6グループ、インタビューは3グループ、インターネットは1グループ、図書資料は2グループであった。（表4）その後、いつ、誰が、どこで収集するのか、また、そのために必要な物は何かという視点で手段に応じた事前準備をグループごとに行った。

事前準備の後、手段を選択した理由について「どうしてその方法を選んだのでしょうか」と発問して、グループごとに聞き取りを行った。選択しなかった理由については「他の方法を選ばなかったのはどうしてでしょうか」と発問した。グループ⑥に行った具体的なやりとりの内容例を以下に示す。

T：どうしてその方法を選んだのでしょうか。
C1：現地調査は実際に調べられるし、写真も新聞に載せたいから。
C2：アンケート調査は、クラス全員の意見が知りたいから。
T：他の方法を選ばなかったのはどうしてでしょうか。
C3：だって本にはクラスの人の意見は載ってないから。
C4：インターネットにもないからね。

（2）-1 手段を選択した理由

現地調査の理由としては、6グループ全てが「実際に見ることができる」「写真が撮れる」であった。具体的には、「実際に見て調べたいから」「写真を新聞に載せたいから」などであった。

インタビューの理由としては、3グループ全てが「直接聞くことができる」であった。そのうち2グループは「詳しく聞きたい」ことも加えていた。具体的には、「〇〇先生に直接聞きた

いし、〇〇先生なら答えてくれると思うから。」などであった。

表4 選択した情報手段

グループ	話題	収集手段
①	X小学校の歴史・人・植物	・現地調査 ・インタビュー ・図書資料
②	X小学校の歴史	・現地調査
③	X小学校の給食	・インタビュー ・アンケート調査
④	地域のいいとこと・通学路	・現地調査 ・アンケート調査
⑤	地域の人口・お祭り・野菜・果物	・現地調査 ・インターネット ・アンケート調査 ・図書資料
⑥	文房具に使われている人気キャラクター	・現地調査 ・アンケート調査
⑦	最新の文房具	・現地調査 ・アンケート調査
⑧	クラスの友達の習い事・将来の夢・遊び 担任の先生について	・インタビュー ・アンケート調査

インターネットの理由としては、「現地調査をしなくてよい」「パソコンを使える人がグループにいる」であった。具体的には、「みんなで集まって（お店の名前）に行きたいけど、予定が合わないから、インターネットを使う」と回答していた。

図書資料の理由としては、「実際に本を見ながら現地調査ができる」「使える本をすでに持っている」であった。

アンケート調査の理由としては、6グループ全てが「たくさんの人の考えを知りたい」であった。そのうち5グループは「初めての手段」といった理由であった。具体的には「クラス全員の意見を知りたいから」「今までやったことないし、面白そうだから」などであった。

また、手段の検討をする中で、自分たちの収集する目的に立ち返る発言が見られた。（内容例の下線部）

（2）-2 手段を選択しなかった理由

現地調査については2グループとも「時間がかかる」であった。

インタビューについては、3グループがインタビューの対象を見つけることへ困難さを感じていた。具体的には「誰に聞いていいかわから

ないから」「知っている人がいないと思うから」といった内容であった。

インターネットについては、機器操作の困難さが多かった。また、調べる内容があまりにも身近すぎることも理由として挙げられた。後者は図書資料についても同様であった。

アンケート調査については、選択しなかった理由の回答は得られなかった。

4 考察

「手段の特徴の検討」において、これまでの経験を元にクラス全体で特徴を考えたことは、有効であったと考えられる。同じことを経験していても、児童によって獲得されている知識や技能等には個人差があるためである。

「手段の検討」では、各グループが根拠を持って手段を選択することができた。根拠となる理由には、クラス全体で検討した「手段の特徴」が挙げられていたため、「手段の特徴の検討」が有効であったと考えられる。さらに、グループがそれぞれ目的を確認してから情報の収集を始めることができた理由は、手段を検討する上で必然的に自分たちの知りたい情報は何なのかということに立ち返っていたためだと考えられる。

インターネットを手段として選択したグループは1グループだけであった。選択しなかった理由として機器操作の困難が多く挙げられたことは、児童による経験の個人差が大きいことを示唆している。また、児童にとって最も身近であると考えられる図書資料を選択しなかったグループが6グループいたことについては、話題にする内容がクラスの友達のことや、X小学校についてなど、あまりに身近な内容であったことが考えられる。

インターネットとアンケート調査については、手段として扱う際のスキルが不十分であった。手段として繰り返し扱う中でスキルは向上していくと考えられるが、特に中学年段階で情報の収集を行う際は、児童の実態に応じて、手段として扱う上でのスキル指導の時間を確保する必

要があることが示唆される。また、その時間の確保には教科横断的な視点が必要であると考えられる。

本実践で児童から挙げられた手段の特徴は4年生段階のものである。今後学年が上がり情報の収集を繰り返し経験していく中で、手段の特徴は児童の中で更新され、それに応じて、目的に応じた手段の選択にも変化が見られることが考えられる。

5 まとめと今後の課題

小学校4年生国語科「書くこと」の学習過程の「情報の収集」段階の特徴の検討を行った。その結果、「手段の特徴の検討」を経て「手段の検討」を行ったことで、手段の特徴を根拠として目的に応じた手段を選択する姿が見られた。一方で、手段によってはスキルが不十分であったことから、特に中学年では児童の実態に応じてスキル指導の時間を確保する必要があることが示唆された。

今後は、児童が様々な手段を用いて情報の収集を繰り返し経験したり、発達段階を経ていったりしていく中で、手段の特徴についての捉えがどのように変わるのか検討していきたい。

参考文献

- 甲斐睦朗他 (2015) 国語四上かがやき 光村図書出版株式会社
- 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領解説 国語編
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/28/1231931_02.pdf
(2018.8.17 確認)
- 永田奈央美 (2017) 情報リテラシー教育における情報の収集と整理, 専修大学情報科学研究所所報, 11-14
- 塩谷京子編 (2016) すぐ実践できる情報スキル 50, ミネルヴァ書房